

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2017年11月10日

【四半期会計期間】 第114期第2四半期(自 2017年7月1日 至 2017年9月30日)

【会社名】 ニチバン株式会社

【英訳名】 NICHIBAN CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 堀田直人

【本店の所在の場所】 東京都文京区関口二丁目3番3号

【電話番号】 (03)5978 - 5601(代表)

【事務連絡者氏名】 上席執行役員 管理本部長 高橋泰彦

【最寄りの連絡場所】 東京都文京区関口二丁目3番3号

【電話番号】 (03)5978 - 5601(代表)

【事務連絡者氏名】 上席執行役員 管理本部長 高橋泰彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第113期 第2四半期 連結累計期間	第114期 第2四半期 連結累計期間	第113期
会計期間	自 2016年4月1日 至 2016年9月30日	自 2017年4月1日 至 2017年9月30日	自 2016年4月1日 至 2017年3月31日
売上高 (百万円)	21,510	22,440	44,145
経常利益 (百万円)	1,892	2,400	4,274
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,436	1,536	3,107
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,348	1,551	3,085
純資産額 (百万円)	29,032	31,570	30,766
総資産額 (百万円)	53,867	59,457	56,120
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	69.30	74.13	149.95
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	53.9	53.1	54.8
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,117	1,419	3,899
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,864	794	5,349
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	550	844	636
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	12,504	10,492	10,713

回次	第113期 第2四半期 連結会計期間	第114期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2016年7月1日 至 2016年9月30日	自 2017年7月1日 至 2017年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	30.73	34.37

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 2017年10月1日付けで普通株式2株につき1株の割合で株式併合を実施しております。第113期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、当第2四半期連結会計期間において、タイのバンコクにNICHIBAN (THAILAND) CO.,LTD.を新規設立し、連結の範囲に含めております。

この結果、2017年9月30日現在では、当社グループは、当社、子会社4社、関連会社3社及びその他の関係会社1社により構成されることとなりました。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の諸政策により緩やかな回復基調にて推移いたしました。が、諸外国情勢不安や中国の景気減速、米国の政策動向や北東アジアの地政学的リスクの影響により、依然として先行きは不透明な状況であります。

このような経済情勢のなか、当社グループは中長期経営計画「NB100」のStage3戦略として「500億企業品質の確立」「創造開発型企業の実現」「最適事業展開体制の構築」に取り組んでおります。

その結果、売上高は224億4千万円（前年同期比4.3%増）、経常利益は24億円（前年同期比26.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は15億3千6百万円（前年同期比7.0%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### メディカル事業

##### （ヘルスケアフィールド）

ドラッグストアを中心とした大衆薬市場におきましては、大手ドラッグチェーンの業務提携化や、一部医薬品や商品の小売価格競争の影響もありましたが、鎮痛消炎剤「ロイヒつば膏<sup>TM</sup>」の販売は継続して好調に推移いたしました。高機能救急絆創膏“ケアリーヴ<sup>TM</sup>”シリーズはテレビCMを展開し、傷を早くキレイに治す“ケアリーヴ<sup>TM</sup> 治す力<sup>TM</sup>”シリーズの販売伸張も加え、好調に推移いたしました。

また、新しい機能を持たせてフィット感に優れたテーピングテープ「バトルウィン<sup>TM</sup>Wグリップ<sup>TM</sup>」を新発売して営業展開を開始いたしました。

##### （医療材フィールド）

医療機関向け医療材料市場におきましては、医療費削減の傾向により、衛生材消耗品に対するコスト要求は強く、厳しい販売環境でありました。医療現場のニーズを取り入れて製品化したしました、極低刺激性サージカルテープ「スキナゲート<sup>TM</sup>」、フィルムドレッシング材「カテリープラス<sup>TM</sup>」及び穿刺部保護・止血製品“セザブリック<sup>TM</sup>”シリーズと、手術後の傷あとケアテープ「アトファイン<sup>TM</sup>」等の手術後トータルケア製品“アスカブリック<sup>TM</sup>”シリーズの販売に注力いたしました。が、売上は前年を下回りました。

以上の結果、ヘルスケアフィールドと医療材フィールドを合わせましたメディカル事業全体（海外事業を含む）の売上高は100億4千3百万円（前年同期比9.3%増）、営業利益は31億5千9百万円（前年同期比29.2%増）となりました。

## テープ事業

### (オフィスホームフィールド)

文具事務用品市場におきましては、官公庁やオフィスでの需要は横ばいのまま、学校学童向け需要が減少を続けているため、依然として厳しい販売環境となりました。両面テープ“ナイスタック<sup>TM</sup>”シリーズなどの定番文房具テープ製品の販売活動と合わせ、“Dear Kitchen<sup>TM</sup>(ディアキチ)ワザアリ<sup>TM</sup>テープ”と“プチジョア<sup>TM</sup>”のシリーズ展開を進めて、キッチン周りやパーソナル用途での使用を提案する営業を展開いたしましたが、「セロテープ」や布粘着テープなどの主力製品の販売が不振となったために、売上は前年を若干下回りました。

### (工業品フィールド)

産業用テープ市場におきましては、国内経済の緩やかな回復継続により、自動車産業や建築業界向け塗装マスキングテープ製品と、電器製品の製造工程にて使用される電気絶縁テープ類の実績回復も見られました。ダンボール包装梱包用テープ製品につきましては、前連結会計年度に実施いたしました不採算売価での取引案件の見直しにて減少した分の売上回復を図るべく、当第1四半期連結会計期間より新規顧客への営業活動を継続しております。「セロテープ」と食品包装用「たばねら<sup>TM</sup>テープ」につきましては需要の足踏みにより売上が伸び悩み、当フィールドの売上は前年並みに留まりました。

以上の結果、オフィスホームフィールドと工業品フィールドを合わせましたテープ事業全体(海外事業を含む)の売上高は123億9千6百万円(前年同期比0.6%増)、営業利益は8億7百万円(前年同期比12.9%減)となりました。

また、海外事業におきましては、各国へのマーケティング活動を継続し、海外需要に対応した製品開発を進めるとともに、当第2四半期連結会計期間においてタイ・バンコクに設立いたしました販売子会社NICHIBAN (THAILAND) CO., LTD.による販売展開を開始し、高機能救急絆創膏“ケアリーヴ<sup>TM</sup>”や止血製品“セサブリック<sup>TM</sup>”シリーズなどのメディカル事業製品と、「Panfix<sup>TM</sup>セルローステープ」や塗装用和紙マスキングテープなどのテープ事業製品の販売チャネルの構築を進めております。

(注) 事業の状況(キャッシュ・フローの状況を除く)に記載しております金額には消費税等が含まれておりません。

## (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ33億3千6百万円増加し、594億5千7百万円となりました。また純資産は8億3百万円増加し、315億7千万円となりました。この結果、自己資本比率は53.1%となりました。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前連結会計年度末に比べ2億2千1百万円(2.1%)減少し、104億9千2百万円となりました。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、前第2四半期連結累計期間に比べ6億9千7百万円(33.0%)減少し、14億1千9百万円となりました。これは主に売上債権が増加したことによるものです。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、前第2四半期連結累計期間に比べ10億6千9百万円(57.4%)減少し、7億9千4百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出が減少したことによるものです。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、前第2四半期連結累計期間に比べ2億9千3百万円(53.4%)増加し、8億4千4百万円となりました。これは主に配当金の支払額が増加したことによるものです。

## (4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、6億2千7百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	140,000,000
計	140,000,000

(注) 2017年6月28日開催の第113回定時株主総会において、株式併合に係る議案(2株を1株に併合)が承認可決されております。これにより、株式併合の効力発生日(2017年10月1日)をもって、発行可能株式総数が70,000,000株となっております。

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2017年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2017年11月10日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	41,476,012	20,738,006	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	41,476,012	20,738,006		

(注) 2017年6月28日開催の第113回定時株主総会において、株式併合に係る議案(2株を1株に併合)が承認可決されております。これにより、株式併合の効力発生日(2017年10月1日)をもって、発行済株式総数が20,738,006株となっております。また、2017年5月15日開催の取締役会決議により、2017年10月1日をもって、単元株式数を1,000株から100株に変更しております。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
2017年7月1日～ 2017年9月30日		41,476,012		5,451		4,186

(注) 2017年6月28日開催の第113回定時株主総会において、株式併合に係る議案(2株を1株に併合)が承認可決されております。これにより、株式併合の効力発生日(2017年10月1日)をもって、発行済株式総数が20,738,006株となっております。

(6) 【大株主の状況】

2017年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
大鵬薬品工業(株)	東京都千代田区神田錦町1-27	13,516	32.59
ニチバン取引先持株会	東京都文京区関口2-3-3	2,217	5.35
(株)三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	2,069	4.99
(株)みずほ銀行	東京都千代田区大手町1-5-5	2,069	4.99
エムエルアイ フォークライアント ジェネラル オムニノンコラテ ラルノントリーティーピービー (常任代理人 メリルリンチ日本 証券(株))	MERRILL LYNCH FINANCIALCENTRE,2 KING EDWARD STREET,LONDON EC1A 1HQ (東京都中央区日本橋1-4-1 日本橋一丁目 三井ビルディング)	1,348	3.25
日本トラスティ・サービス信託 銀行(株)(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	1,287	3.10
あいおいニッセイ同和損害保険 (株)	東京都渋谷区恵比寿1-28-1	1,080	2.60
(株)りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町2-2-1	577	1.39
日本マスタートラスト信託銀行 (株)(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	575	1.39
第一生命保険(株)	東京都千代田区有楽町1-13-1	555	1.34
計		25,293	60.98

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2017年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 32,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 41,389,000	41,389	
単元未満株式	普通株式 55,012		
発行済株式総数	41,476,012		
総株主の議決権		41,389	

(注) 2017年6月28日開催の第113回定時株主総会において、株式併合に係る議案(2株を1株に併合)が承認可決されております。これにより、株式併合の効力発生日(2017年10月1日)をもって、発行済株式総数が20,738,006株となっております。また、2017年5月15日開催の取締役会決議により、2017年10月1日をもって、単元株式数を1,000株から100株に変更しております。



【自己株式等】

2017年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ニチバン株式会社	東京都文京区関口 二丁目3番3号	32,000		32,000	0.1
計		32,000		32,000	0.1

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2017年7月1日から2017年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2017年4月1日から2017年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、清明監査法人により四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2017年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	11,119	10,898
受取手形及び売掛金	14,009	14,651
商品及び製品	3,630	4,590
仕掛品	1,476	1,636
原材料及び貯蔵品	1,532	1,413
その他	1,060	1,049
貸倒引当金	2	-
流動資産合計	32,826	34,239
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	4,837	5,608
機械装置及び運搬具（純額）	6,117	5,937
建設仮勘定	4,768	6,248
その他（純額）	2,968	2,940
有形固定資産合計	18,691	20,734
無形固定資産	308	279
投資その他の資産	4,293	4,204
固定資産合計	23,294	25,217
<b>資産合計</b>	56,120	59,457
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	4,109	4,270
電子記録債務	5,504	5,991
未払法人税等	459	777
賞与引当金	1,061	1,125
役員賞与引当金	74	38
環境対策引当金	7	7
固定資産撤去費用引当金	15	53
災害損失引当金	96	96
転進支援費用引当金	30	21
その他	5,418	6,859
流動負債合計	16,776	19,240
<b>固定負債</b>		
長期借入金	2,000	2,000
役員退職慰労引当金	69	75
退職給付に係る負債	3,117	3,185
長期預り保証金	2,995	3,003
資産除去債務	82	82
その他	312	299
固定負債合計	8,577	8,647
<b>負債合計</b>	25,354	27,887

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2017年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,451	5,451
資本剰余金	4,186	4,186
利益剰余金	20,819	21,609
自己株式	13	14
株主資本合計	30,444	31,233
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	229	261
為替換算調整勘定	85	81
退職給付に係る調整累計額	177	157
その他の包括利益累計額合計	321	337
純資産合計	30,766	31,570
負債純資産合計	56,120	59,457

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2016年4月1日 至2016年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)
売上高	21,510	22,440
売上原価	14,419	14,631
売上総利益	7,091	7,808
販売費及び一般管理費	5,255	5,513
営業利益	1,835	2,295
営業外収益		
受取利息	5	1
受取配当金	8	10
持分法による投資利益	87	94
その他	26	41
営業外収益合計	127	147
営業外費用		
支払利息	24	23
為替差損	25	-
製品自主回収関連費用	-	13
その他	20	5
営業外費用合計	70	42
経常利益	1,892	2,400
特別利益		
固定資産売却益	173	-
受取保険金	5	-
転進支援費用引当金戻入額	-	9
特別利益合計	179	9
特別損失		
固定資産除売却損	30	60
新工場建設関連損失	-	16
固定資産撤去費用引当金繰入額	-	53
特別損失合計	30	130
税金等調整前四半期純利益	2,042	2,279
法人税等	605	743
四半期純利益	1,436	1,536
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,436	1,536

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2016年4月1日 至2016年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)
四半期純利益	1,436	1,536
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	32
退職給付に係る調整額	7	19
持分法適用会社に対する持分相当額	76	3
その他の包括利益合計	87	15
四半期包括利益	1,348	1,551
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,348	1,551
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,042	2,279
減価償却費	880	879
貸倒引当金の増減額(は減少)	6	2
受取利息及び受取配当金	13	12
支払利息	24	23
固定資産除売却損益(は益)	143	60
受取保険金	5	-
新工場建設関連損失	-	16
売上債権の増減額(は増加)	379	642
たな卸資産の増減額(は増加)	465	1,000
仕入債務の増減額(は減少)	113	647
賞与引当金の増減額(は減少)	-	63
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	0	6
環境対策引当金の増減額(は減少)	18	-
固定資産撤去費用引当金の増減額(は減少)	25	53
転進支援費用引当金の増減額(は減少)	-	9
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	77	43
その他	173	614
小計	3,012	1,792
利息及び配当金の受取額	13	12
利息の支払額	24	24
保険金の受取額	5	-
法人税等の支払額	890	360
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,117	1,419
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	78	298
定期預金の払戻による収入	178	298
有形固定資産の取得による支出	2,305	733
有形固定資産の売却による収入	420	0
有形固定資産の除却による支出	19	44
投資有価証券の取得による支出	402	0
投資有価証券の償還による収入	400	-
無形固定資産の取得による支出	56	16
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,864	794
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
リース債務の返済による支出	94	97
配当金の支払額	455	745
その他	0	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	550	844
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	1
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	297	221
現金及び現金同等物の期首残高	12,802	10,713
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,504	10,492

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

当第2四半期連結会計期間より、新たに設立したNICHIBAN (THAILAND) CO.,LTD.を連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)
給料及び手当	1,187百万円	1,230百万円
従業員賞与	479	7
賞与引当金繰入額		520
役員賞与引当金繰入額	36	38
退職給付費用	112	98
役員退職慰労引当金繰入額	7	6

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)
現金及び預金勘定	12,182百万円	10,898百万円
有価証券勘定	507	
預入期間が3か月を超える定期預金	185	405
現金及び現金同等物	12,504	10,492



(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2016年6月28日 定時株主総会	普通株式	455	11	2016年3月31日	2016年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2017年6月28日 定時株主総会	普通株式	746	18	2017年3月31日	2017年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	メディカル 事業 (百万円)	テープ 事業 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	9,187	12,322	21,510		21,510
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	49	30	80	80	
計	9,237	12,352	21,590	80	21,510
セグメント利益	2,445	926	3,371	1,536	1,835

(注) 1. セグメント利益の調整額1,536百万円には、セグメント間取引消去80百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用1,455百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	メディカル 事業 (百万円)	テープ 事業 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	10,043	12,396	22,440		22,440
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	59	29	88	88	
計	10,102	12,425	22,528	88	22,440
セグメント利益	3,159	807	3,966	1,671	2,295

(注) 1. セグメント利益の調整額1,671百万円には、セグメント間取引消去88百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用1,582百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	69円30銭	74円13銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	1,436	1,536
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	1,436	1,536
普通株式の期中平均株式数(千株)	20,724	20,722

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2. 当社は、2017年10月1日付けで普通株式2株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2017年11月10日

ニチバン株式会社  
取締役会 御中

### 清明監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 今 村 敬 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 岩 間 昭 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているニチバン株式会社の2017年4月1日から2018年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2017年7月1日から2017年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2017年4月1日から2017年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ニチバン株式会社及び連結子会社の2017年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。